



【照会先】

平成 26 年 10 月 30 日

【照会先】

企画・情報部企画課

課 長 金子 一夫 (2140)

国際協力室長 西村 陽子 (2148)

係 長 柴崎 明 (2142)

(代表電話) 04-2995-3100

報道関係者各位

国立障害者リハビリテーションセンター

高齢化と障害に関する国際セミナーの開催

世界における高齢化と障害

～WHOの新戦略と高齢者におけるフレイル、サルコペニア～

国立障害者リハビリテーションセンターでは、日本で唯一の「障害の予防とリハビリテーションに関する WHO 指定研究協力センター（別紙参照）」として国際セミナーを開催します。

今回のセミナーでは「**高齢化と障害**」をテーマに、WHO 担当者の基調講演、日本、中国、韓国の専門家及び障害当事者による高齢化に伴う運動機能障害と、既に障害がある人の高齢化の両面から現状と課題の議論を行います。

また、2014 年 5 月に日本老年医学会が名付けた「**フレイル**」について「**サルコペニア**」とともに紹介します。

高齢化と障害に関する国際セミナー

1 テーマ: 高齢者のもつ運動機能障害-高齢期に生じる障害と障害者の高齢化-

2 日 時: 平成 26 年 11 月 8 日(土) 13:00～17:30

3 場 所: 国立障害者リハビリテーションセンター本館講堂

4 主 催: 国立障害者リハビリテーションセンター

(障害の予防とリハビリテーションに関するWHO指定研究協力センター)

5 参加者: 本テーマに関心のある方

6 言 語: 日本語、英語(日英同時通訳有)

7 参加費: 無料

※ サルコペニア、フレイルとは、

加齢に伴い筋肉量が減少するため、握力低下や歩行速度の低下から転倒等を起こし易くなる状態を**サルコペニア**という。

高齢期の身体機能低下、精神・心理的状态の低下等により要介護、死亡につながる状態を

フレイルといい、日本では日本老年医学会が、弱さを表す frailty (フレイルティ) から名付けた。

サルコペニアはフレイルの身体機能低下要因の一つ。

プログラム

13:00

開会挨拶

国立障害者リハビリテーションセンター総長 中村 耕三

13:10～13:50

基調講演「障害と高齢化：WHOの見解と対応」

WHO西太平洋地域事務局テクニカルリード Pauline Kleinitz
(ポーライン クレインツ)

WHOの障害とリハビリテーションに関する活動の専門管理者（専門官であるテクニカルオフィサーの統括者）。

障害と国際開発に関わる大学研究所、NGOでの実践経験は20年以上に亘る。

14:00～16:10

発表

1「韓国における高齢化および関連する障害についての現状」

韓国国立リハビリテーションセンター長 Seong Jae Lee (イ ソンジェ)

医師。リハビリテーションを専門として国内外の大学で臨床と教育に従事。

2「中国における高齢者の脳卒中リハビリテーションについて」

中国リハビリテーション研究センター神経リハビリテーションセンター副主任 陳 立嘉 (チン リージャ)

医師。神経内科を専門とし、日本での研修経験を持つ。

3「高齢者におけるサルコペニア、フレイルの意義」

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授 荒井 秀典

4「アトローゼ型脳性麻痺に見る加齢性頸椎障害」

三井記念病院整形外科部長 星地 亜都司

5「脊髄損傷者の高齢期に於ける身体機能面と生活面の現状と問題」

-介護制度の視点から課題を検証-

全国脊髄損傷者連合会 副代表理事、日本せきずい基金 理事長
大濱 眞

6「健康維持からみた運動機能障害とその対応策」

国立障害者リハビリテーションセンター
障害者健康増進・スポーツ科学支援センター長 緒方 徹

16:20～17:20

会場との質疑応答、ディスカッション

17:25

閉会挨拶

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長 飯島 節

(別紙)

世界保健機構（WHO）指定研究協力センターについて

世界保健機構（WHO）は、独自の研究機関を持たないため、世界の一流研究機関をWHO指定研究協力センターに指定し、常に最新の医学知識を得ると共に、研究員の受入れ、専門家の派遣等WHO事業に協力を依頼している。

国立障害者リハビリテーションセンターは、平成7年5月11日付で「障害の予防とリハビリテーション」に関して、WHO指定研究協力センターの指定を受けて以来、リハビリテーションの分野でWHO事業に協力をしてきた。

※平成24年10月に5度目の指定（指定期間：4年）を受ける。

指定の協力事項

- **西太平洋地域の障害をもつ人々の質の高い保健、リハビリテーションサービス、スポーツへのアクセス向上のための知識や資源の開発についてWHOに協力する**
- **WHOに協力して、西太平洋地域の障害とリハビリテーションに関する能力開発活動を行い、優れた実践・経験を共有するための活動を行う**
- **障害をもつ人々のニーズと権利についての意識を高め、理解を進める活動をWHOと共に行う**